TDA News Letter　Vol.49

# 景/観/文/化

NPO法人 景観デザイン支援機構　けいかん・きこう　　http://www.tda-j.or.jp

2020-06-01

**特集**

**今だからこそ　未来の景観を問う**

## そこに愛はあるんか

「宇野ちゃん、ニュータウンのプランニングというのはね、とりわけ丘陵地においては、まず大地の声なき声に一生懸命耳を傾けるところからだよ。どういう街にしてほしいか必ず何かサインを発しているから」。今は亡き山本眞三さんの言葉だ。住宅・都市整備公団(現UR都市再生機構)での打合せの後、よく飲みながら聴かされた。この言葉は僕の座右の銘でもある。

16年前、54歳という若さでこの世を去った彼は、生前、発注者という立場を超え、独立間もない都市プランナーの僕を随分かわいがってくれた（と思う）。時はバブル崩壊後、多摩ニュータウンの地価は高止まり、一方で国からは不良在庫の早期処分を厳しく指導される中、長池地区や稲城地区若葉台のマスタープランの見直しや住宅地計画に関わる機会をいただいた。コンセプトがない計画では売れ残り必至。URの危機感はこれまでにも増して強かった。いかにそこにしかない魅力的なまちをデザインするか？いつものように大地の声なき声に愛をもって耳を傾けつつ、地域に開かれたまちづくりをめざした両地区は、この時期に大方の予想に反して多くの人に選ばれた。

さて、女川である。津波によりまちを丸ごと失い文字通りゼロからの復興街づくりに2012年春から関わる機会を得た。よく復興のトップランナーともてはやされるが、プランニングには何の目新しさもない。これまで通り「大地の声に愛を持って耳を傾け」「まちを海に開き」「まちを構造化」し、「場のデザインを充実」するというプランニングセオリーを忠実に実践した結果に他ならない。もしも他の被災地と違うところがあるとすれば、「そこに愛はあるんか」ではなかろうか。地方都市の生き残りをかけ、単なる復興を越えた愛のあるチャレンジがこの街のあちこちに隠されている。コロナが収束したら是非女川を訪ねて、街のあちこちに隠された関係者一人一人の愛と次なる不測の事態への手掛かりを感じていただけたらこの上なく嬉しい。

㈲アトリエU都市・地域空間計画室 代表　**宇野 健一**

**目次**

P1
■巻頭
そこに愛はあるんか
／（写真・文）宇野 健一
P2 ～ 3
■ TDA NEWS
コロナ禍の都市・まちに思う
／倉澤 聡
■ランドスケープ事情
未来の景観のために・・・
／高田 典夫
P4 ～ 5
■追悼　栗原裕さん
P6
■シリーズ：地域から
小布施町　その２　／西澤 広智
■景観ビジネス最前線
／日本興業㈱
■ホワイトボード

# TDA NEWS

## コロナ禍の都市・まちに思う

TDA 正会員／都市計画家　倉澤 聡

最近の事態は人間も変化を続ける生物やウイルスによって織りなされる生態系の一生物であることを痛感させられている。この感染爆発により、イタリアやフランスでは３月中旬に外出制限が始まった。買い物や運動は許可されていても条件付きとなった。

準備の暇もなく長時間自宅という場所に向き合うことになり、身近なところでの買い物や散歩・ランニング以外はほとんど家に籠るという生活が長く続くときに、かの地では都市に関してどのような思いを抱いているのだろうか。

外出制限の渦中にある４月下旬に景観文化編集部と相談して決めた簡単ではあるが６つの質問を、人と密にコミュニケーションをとることで成り立つ仕事をするイタリアとフランスの社交的な友人二人に聞いてみた。

**●イタリアとフランスの友人に聞く**

１人はトリノ在住の映画監督で、Il Piccolo Cinemaというコミュニティーシネマの主宰もしている。またフランスの友人は、ノルマンディーの中心都市カーン（人口約10万人／都市圏人口約42万人）に隣接する街、エルビル・サン・クレール（以下エルビルと略）に在住し主に外国からの観光客に対するプロの旅行ガイドだ。

トリノ：ローマ、ミラノ、ナポリに次ぐイタリアの大都市で人口約88万人（都市圏人口約170万人）、人口密度は6,700人/k㎡程度。

エルビル：カーン中心部から2キロほど北東に位置する。農村だったところに新都市開発（1960年代以降）が行われ、現在の人口は約2.3万人、人口密度は約2,000人/k㎡の街である。簡単にいえばイタリアの大都市とフランスの地方中核都市に接する新興住宅都市になる。

モーレ・アントネリアーナからのトリノ鳥瞰

**質問1「自由な外出が長期間できない状況の中、どのような都市空間が一番恋しいと感じますか？」**

トリノ：緑地、子どもの遊び場、映画館や劇場、美術館。

エルビル：図書館。ただし、公園や森が近くになければ、子どもが走ったり、遊んだりできる公園が恋しくなるだろう。

感染リスクがあるところに行けないのは仕方がないが、特に子どもがいる家族には、十分な緑地や遊び場が求められている。

トリノの市場の日常風景

**質問2「必要な外出時（買い物、散歩など）、心が落ち着くと感じた都市空間や景観はどのようなところですか？」**

トリノ：小さな家や小さなお店のある地区の風景。

エルビル：森に行って楽しむ（公園や森が自宅近くにある）。

現代社会は忙しく、身の回りの公共空間に対して手を入れることが少なくなりつつあるが、身近なところに自分事として豊かな日常の風景を日ごろ育てておく、空間を自身が関わり意味のある場所に仕立てておく、ヒューマンスケールを大事にすることは、非常時の暮らしにとっても重要であるということだろう。

美味しい菓子屋のあるトリノの住宅地

**質問3「今後、再びパンデミックが起こると考えた時、準備しておいた方が良いと思う都市施設・都市空間はどのようなものですか？」**

トリノ：日常のことも鑑み、車よりも歩行や自転車のためにより広いスペースを確

## ランドスケープ事情

## 未来の景観のために・・・
### 空間ワークショップの目指しているもの

校庭にできた「まち」

みんなでつくった「いえ」

自分の背丈よりも大きいものを作るという経験は、少なくとも小学校の授業で体験することはないでしょうから、ほとんどの子どもたちが初めての経験ということになります。それも２種類の角材とゴムバンドだけで・・・というわけですから、始まりはみんな半信半疑です。それが時間が経つにつれてみんなの眼の色が変わってきます。休み時間も忘れて90分間作り続け、それぞれ個性的な「いえ」が建ち並び、あっという間に校庭に楽しそうな「まち」が出現するとともに、満足そうな子どもたちの笑顔が輝きます。毎年10～20校でこの空間ワークショップを実施して、既に15年目に入っていますので、参加した小学生は12,000人を優に超え、少なくとも1,000軒以上の「いえ」が建ち並んだことになります。この数にもびっくりしますが、それよりももっと驚くことは、同じのものができないということです。子どもたちの想像力/創造力 恐るべし！

**楽しみながら学ぶ**

この空間ワークショップは、建築の専門家としての建築家がその知識と経験を活かして、直接子どもたちに接し、楽しみながら一緒に学んでいくことが特徴で、小学校の先生方からもそのことが評価されています。毎年続けて実施している中で、そのことに加えて、協力することの大切さ、協力するためのコミュニケーションの取り方も同時に学べることに気がつきました。

これまで空間ワークショップをやりながら感じていたことは、「動く楽しさ」「集う楽しさ」「わかる楽しさ」「伸びる楽しさ」の４つの楽しさに集約されます。空間のボリューム、形状などを決めていくために議論し、試行錯誤しながら学んだことはこの体験

保することが大切、頻繁な公共交通やバス停の拡充、公園や子どもの遊び場、より広い緑地を備えた学校。

エルビル：バスや買い物で列をなして待つ場合への屋根などの対応策、アルコール消毒ジェルやマスクのディスペンサー。

人のつながり方によって様々に感染する未来の新感染症も鑑み、疫学的な予防措置はやはり考えておく必要がある。今回のように新型ウイルスはすべての人に感受性があるため指数関数的に広がり、効果的な薬やワクチンが開発されるまで人と人との距離をとるという原始的な方法が求められることは今後も想定される。事実100年ほど前のスペイン風邪流行時と現在の新型コロナ対策はほとんど同じである。日常と数か月以上続くこともある行動制限を行わざるを得ない感染症流行時において身近な空間の持ちうる意味を再検証し、日常と非常時のバランスをとりながら空間に積極的な意味を持たせられるよう再検証が必要だろう。つまり、その調整役的な新たな都市空間が必要になるかもしれない。

エルビルの最近の再開発地区

**質問4「今後、再びパンデミックが起こると考えた場合、どのような場所に暮らしたいと思いますか？」**

トリノ：庭のある家や森や公園が近くにある場所。

エルビル：田舎や小さな村。

人が密に活動することで魅力を生み出す都市に対して、人との距離を取らなければならないときは、感染症のゆりかごとなる都市を離れたくなるという心境になる。とはいえ、田舎に移住できる人は限られているし、田舎に別荘を持ち逃げられるというのは今回のコロナ禍でも裕福層に限られている。また、多くの人が田舎に移住すれば再び都市を生むだけである。都市空間にできることは、日ごろから都市のアメニティーを高めることしかできないのではないだろうか。

コロナ禍でもホッとさせてくれたエルビル・サン・クレールの緑地

**質問5「再びパンデミックが起こると考えた時、現在の住宅で工夫しようと思うことは何ですか？」**

トリノ：大きなテラス、家の中の小庭・植栽、自分の作業スペース。

エルビル：作業スペース、テニスができるほどの庭はさすがにないので、ベタンクでもできる遊び場を作りたい。

多くの住宅では空間を広くすることは可能でないかもしれないが、より快適な作業スペースと植栽空間が求められている。自宅や近隣を見つめなおすいい機会になっているようである。

入場待ちをするエルビル・サン・クレールの商業施設

**質問6「パンデミック後、都市や街はどのようなことが変化すると思いますか？」**

トリノ：安全のための社会的距離に対してなんらかの空間の修正はあるとしても、それは社会生活、幸福、子どものためではなく一時的なものであり、大きな変化はないだろう。

エルビル：カフェやレストラン、公共交通などが状況に合わせた適応が必要になるだろう。

経済的事情による閉店やサプライチェーンの変更、本社の一極集中の是正など数々の変更はあるかもしれないが、都市空間が大きく変わることはないかもしれない。これまで、コレラのような感染症にかかわる衛生については都市計画で考慮されてきたが、飛沫感染や接触感染による数か月以上続く行動制限を意識した都市計画は考えてこなかった。それらは都市空間だけに解決を求められないが、今後新ペスト的な感染症の可能性もある中で、都市計画や景観分野でも非常時の行動制限下における安心や充足感をもたらすための都市計画や景観という視座も重要性を増すだろう。

建築家／実践女子大学教授　**高田 典夫**

角材とゴムバンドでできた架構

校庭に落ちた影も見どころ

が、自分たちの住んでいる「いえ」や「まち」への関心を深め、モノが言えるひとを育てることになります。

地域とともに行う建築・住環境教育は、そこに住むひとを取り巻くいろいろな事象に敏感に反応できるひとを育てていくことに尽きます。いろいろな視点でまちを見るための基礎知識としての建築・住環境教育が空間ワークショップを通して始まり、１５年間の継続的な活動により、徐々にその成果を挙げつつあると感じています。

**まちづくりは　ひとづくりから・・・**

空間ワークショップとは、

２種類の長さ（1800mm/900mm）の角材とゴムバンドだけを使い6～10人の子供たちがグループで協働してアイデアを出し、自分たちが入ることができる「いえ」をつくり、みんなで校庭に「まち」をつくろう

というものです。

2003年にJIA関東甲信越支部中野地域会のメンバーが考案し、活動を始めた空間ワークショップは、この活動に興味を持った武蔵野市の小学校の図工専科の先生からの発案で、2005年以来「授業としての空間ワークショップ」という形での進化・変遷を経て現在の形に至っています。

この活動が、子どもたちの刺激となり、そこから大人を巻き込んで「いえ」や「まち」のことが家庭での日常的な話題となる社会になれば、未来の景観もまんざらでもないかも・・・。

# 追悼　栗原裕さん

1954.5.29 ～ 2020.4.9
東京都杉並区生まれ。
工学院大学専門学校建築科研究科卒。
㈲ユー・プラネット代表

去る2020年4月9日、当機構の正会員・事務局長の栗原裕さんがお亡くなりになりました。享年66歳でした。栗原さんは、当機構設立時より常にTDA活動の中心的存在として活躍し、二代目事務局長としてTDAの要として活躍してこられました。本紙では緊急特集として、栗原さんとご縁の深かった方々のお言葉をご紹介することで故人への追悼に代えることとし、会員の皆様とともに栗原さんを偲びたいと思います。

## 栗さん、かけがえのない想い出をありがとう

㈱アーバンプランニングネットワーク　永山 哲也

栗さんと出会ったのは今から33年も前のことになります。当時僕が務めていた都市計画連合アトリエに栗さんが出入りしていたからです。アトリエのまちづくりの計画立案の際には土木、特に道路や造成に詳しい栗さんに仕事を手伝ってもらうことが度々ありました。会社は別でしたがお互いにコンピュータのプログラミングが趣味ということで意気投合し、よく帰り際に御茶ノ水で待ち合わせておでんの屋台で呑みました。

僕がアトリエの先輩と会社を立ち上げてからも、計画立案にはいつも栗さんに手助けしてもらっていました。僕らの会社が浅草に移転して暫く経った頃、栗さんから電話がかかってきて、「今の会社の社長と喧嘩したんだけど、そっちに入れてくれない」というのです。喜んで栗さんを迎え入れたのは言うまでもありません。

その後は色々あって会社の分社化によるユー・プラネットの設立などがあるのですが、河津プロジェクトの撤退に伴い、僕が東京に戻りたいと真っ先に相談したのは栗さんでした。栗さんは一言、「戻ってくればいいじゃん」と。

それから18年、僕は自分の出来る範囲で自分の会社を続けながら、ユー・プラネットの財務・経理を見ることで栗さんのお手伝いをさせてもらいました。

時として仕事の上ではとても厳しい面を持ち、妥協ということを知らないんじゃないかというくらい面倒くさい人でしたが、その一方でとてつもなく面倒見が良く、頼まれたら決して断らない懐の広い人でもありました。仕事も、遊びも（人様には言えないようなことも）、共に過ごしてきた日々を忘れることはできません。

## 永遠の街づくり青年／栗原さんを偲ぶ！

㈱都市計画連合アトリエ　田村 和寿[*1]

栗原さんとの最初の出会いは40年前の神楽坂の我が“アトリエ＋居酒屋”でのこと。“街づくりと計画の役割”、“プランづくりの中身と表現方法“等の一渡りの中心的な論点の後、寧ろ引き続き雑談的に次々と登場して来たのが“プランナーの立場と視線”、“コンサルタント仕事の社会的意味“そして“我々自身の日常生活認識”等のより身近でヒューマンな課題群であり、おそらく“若さ故”のことかも知れないがお互いに山盛りの話題や論点をその後の長付き合いの通帳に担保する如き対話を楽しんだものであった。

これを契機に栗原さんを我が“アトリエ”の身近なアドバイザー役に位置づけ、実に長く、広い範囲に亘って多くのプロジェクトや若手メンバーの育成等に助力、助言を頂き、また同時に“都市づくり実務”の実績から多くの経験を引き継いだことに感謝している。

勿論これだけの長期に亘るだけに、栗原さんには多数のプロジェクトの中軸を担って頂いたが、今改めて自らの強い意欲によって取り組まれ、我々誰もが心に留めた記憶の中で振り返ってみたいビッグな“公共事業系”として既に相当の時間を経ているが、次に四つ成果を挙げておきたい。

☆ 大宮市・JR交通博物館開設調査
☆ 千葉県・幕張中心市街地形成計画調査
☆ 板橋区・大山駅周辺市街地再開発計画
☆ 相模原市・古淵駅周辺まちづくり計画

上記中いずれもプラン段階から高く評価された大掛かりな事業であったが、その内側の様々な局面で少しばかり照れ臭そうな笑みを浮かべている栗原さんの姿は今も強く記憶に残っている。

栗原さんとも長く過ごし、議論と杯を重ねるに格好の風情を醸す“神楽坂”の坂道界隈。少し太目で聊か引っ込み思案の愛嬌に富むあの笑顔。今尚目に焼き付いて離れない。

日韓都市デザイン交流会（松本：2019/10/25）

## クリちゃーん・・・！

TDA賛助会員　渡辺 治郎[*2]

突然の出会いは1980年代も後半、ながい御ぶさたを経て今世紀になって、偶然のように貴重な再会の機会はTDAイベントのお陰でした。韓国は安東アンドン・ハウェマウルの民泊でもそのひとつ。馳せ参じた若もの達に囲まれてマッコリを酌み交わす栗さん。ふと近く座したら鋭い視線は乱れず「このヒトはひどーい人でね～、初めての出張に付いて行かされたんだけどまったく不可解な謝罪出張？～！」

その目線は優しく、わがおぼろな記憶の引き出しの把手に触れてくださったのだ。既に往時茫茫ふたりきりでの要領得ない頭を下げるだけの旅（共に覚えのない案件！）に付合わされたと、彼は20歳代の初出張で当方五十路だったか。各々、前途洋々と同多難の始まり、だったのかも。実はちゃん付けでは未だ呼べなかった再会以降の、あまりに短か過ぎた日々。冥界ではゆっくり大きく酌み交わしたい。合掌。

越谷駅東口市街地再開発事業（駅広設計・監理）

## 栗原さん　ありがとうございました

TDA賛助会員／昭和㈱　桑嶋 哲朗[*3]

あまりにも突然で、未だ、実感がわきません。

僕自身の転勤の挨拶を兼ね事務所へお見舞いに伺った3月12日㈭の数分間が最後になってしまいました。

入院されたことを聞き、お見舞いのタイミングを栗原さんともSNSで調整し、会社に復帰された数日間のあのタイミングにお目にかかれたのは僕としてはラッキーでした。

あの日も、毎年5月の誕生日恒例『栗ちゃんサプライズ』の同士の皆さんと、「ちょっとミニサプライズしようぜっ♪」と仕組みました。

栗原さんには僕一人で伺います的に連絡を取り、僕を先陣に五月雨式に同士が現れ、栗原さんを驚かせるつもりでしたが、栗原さんにお会いした瞬間、先鋒の僕が絶句してしまいました。

言葉になりません。

ただただ、ありがとうございました。今の仕事のスタンスの基本、すべてを教えていただきました。

栗原さんに笑われない様、栗原イズムを肝に銘じ、しっかり歩んでいきます。

河津バガテル公園（建築・公園設計／監理）

*1　栗原氏が師と仰ぐ福澤宗道氏（故人）と共に都市計画連合アトリエの共同代表を務める。
*2　永らく日本工営に勤務、その後JICAなど。福澤宗道氏の東大の１期先輩。高山研で土井幸平氏と同期（福澤氏は丹下研）。
*3　元ユー・プラネットのスタッフ。

## 栗原さん追悼

TDA顧問／芝浦工業大学名誉教授　**曽根 幸一**

栗原裕さんは、土木設計の実務から派生したいくつかの団体を仕切るには、またとない人柄で多くの人脈を持つ人でした。彼は当NPO法人「景観デザイン支援機構」の事務局を八木さんから引き継いでいただけでなく、私どもの多くがかかわって来た姉妹団体「都市環境デザイン会議」の活動にも精通していました。

私が二、三の仲間と蔵前のユー・プラネットなる事務所に伺ったのは「景観文化」の編集でしたが、どういう関係か、そこには名編集子の永山さんが同居されていたから、この作業は調整の仕方さえ決まれば、たちどころに誌面ができた。「じゃ」となってで隣の小料理屋か少し先の中華となる。

氏の企画にのせられて、何遍か他団体の講座のお喋りにも出かけたけど、彼は実務面が堅実な人だったから「街角の隅切り」の、設計の実態と制度の違和をネットで口論？したのが最後になってしまった。ご冥福をお祈りします。

## JUDI・TDA・PDC　栗原さんが繋いだ多様な都市デザイン活動

TDA理事／㈱GK設計　**須田 武憲**

栗原さんとの出会いは、私が12年ほど前に都市環境デザイン会議に入会し、事業委員会の一員として活動を始めた頃からになります。JUDIが大好きで、「俺はJUDIに育ててもらった」が口癖、だからいい加減な取り組みや活動をすると舌鋒鋭く突っ込まれることもたびたびありました。事業委員会活動を通じてたくさん議論しましたが、JUDIは基本的に学術団体で研究が中心だから、景観製品の共同開発やプロジェクト活動をしたいね、などと夢を語るうち、事業委員会を独立させて一般社団法人化できないかとの私の妄言に即座に反応していただき、法人の組織化や規約などをまとめ、パブリックデザインコンソーシアム（PDC）立ち上げの中核を担い、その後も中心となって活躍されました。

そして昨年、私をTDAの活動に誘ってくださり、これから一緒にいろいろと活動ができるという矢先の急逝、本当に残念でなりません。心からご冥福をお祈りいたします。

## 栗原さん追悼

TDA理事／㈱デジタルキアロ　**西田 幹**

病室でお会いして２週間後に突然の悲しい知らせが届きました。病状は改善方向と聞いていたので少し安心していました…栗原さん早すぎるよ。

栗原さんとは現役時代から数々のプロジェクトに参加してきました。

今も目に浮かぶ姿は施工会社からの安易なデザイン変更提案に頑としてはねつけている真剣な顔です。

お互い頑固な設計者と頑固な技術者が理解するまで何時間も議論している現場でハラハラしていました。

険悪な雰囲気を何度か経験しましたが、決まって議論の後は居酒屋でいつもの顔の戻ってお酒を酌み交わしていました。設計が良くても施工、材料品質が悪ければ設計が台無しになるとの信条を貫いていました。

また、TDAほか景観団体活動でも事務局をご一緒させていただきました。

本紙の編集会議が開催された日は必ず午後８時ごろに栗原さんからの電話が鳴ります。一言、「編集会議が終わったよ。頼むね。」「わかりました」の以心伝心です。

今でも、携帯電話に栗原さんから掛かってくるような気がしています。

一緒に過ごし楽しかった時間は永久に忘れません。ありがとうございました。合掌。

日韓都市デザイン交流会（長野：2019/10/26）

## エネルギッシュな栗原裕

TDA監事／八木造景研究室　八木 **健一**

栗原君との出会いは30年ほど前の都市環境デザイン会議のセミナーでした。

いつしか親しくなり、TDAの立ち上げ当初から協力してもらうことになります。

過去いくつかのプロジェクトでコラボレートしましたが、彼の話し方がややもすると喧嘩腰のような場合があり、私も何度か「うるさい！」と声を荒げることがありました。私の基本デザインを進めていく中で意思疎通が上手くいかず、それ以上手直しをさせると彼の立場が悪くなると思い、「後は任せる」と言って引き下がることもありました。後日、栗原君が「八木さんは、自分の思い通りにならないと投げ出す」と、ある人に話したと聞き、それから信頼関係が希薄になってしまいました。

TDAの事務局長を私から引き継いでくれたことは、とても感謝していますが、もしかすると、これも私が投げ出したと思われていたとすると心残りです。

安らかにお休みください。合掌

多賀町絵馬通り（道路詳細設計）

## 栗原裕さん・主なしごと

**㈱現代文化研究所　1976～1978**

◆総合的街路利用システムの開発調査
［山形県山形市］（アーバンデザイン）

**㈲佐野建築設計綜合研究室　1978～1979**

◆宮崎市緑のマスタープラン策定
［宮崎県宮崎市］（緑のマスタープラン）

**㈱都市計画綜合研究所　1979～1981**

◆北上市都市基本計画
［岩手県北上市］（都市基本計画）
◆奥鬼怒林間研修センター基本計画
［栃木県日光市］（リゾート施設基本計画）

**㈱邑都市設計　1981～1982**

◆日光大江戸文化街造成設計
［栃木県日光市］（リゾート施設造成実施設計）

**日本都市技術㈱　1982～1991**

◆八戸新都市土地区画整理設計
［青森県八戸市］（区画整理基本計画）
◆武蔵小杉駅前広場実施設計
［神奈川県川崎市］（駅前広場実施設計）
◆新都心の形成と拠点施設整備に関する調査研究－交通博物館基本構想調査－
［埼玉県大宮市］（博物館基本構想）
◆298号松戸・市川地区整備方策案作成調査
［千葉県松戸市・市川市］（道路基本計画）
◆下館駅前地区市街地再開発事業　道路詳細設計
［茨城県下館市］（道路・駅前広場実施設計）
◆直江津駅交通広場基本設計
［新潟県上越市］（道路・駅前広場基本設計）
◆杉田駅東口地区第一種市街地再開発事業
公共施設設計
［神奈川県横浜］（道路・排水実施設計）
◆隅田川(両国橋上流)左岸修景設計
［東京都墨田区］（アーバンデザイン）
◆古淵駅周辺まちづくり計画策定
［神奈川県相模原市］（アーバンデザイン）
◆南浅川橋修景設計委託
［東京都八王子市］（アーバンデザイン）

**都市みらい総合計画研究所　1991～1995**

◆北越谷駅東口Ａ街区市街地再開発事業
公共施設基本設計
［埼玉県越谷市］（道路・駅前広場基本設計）

**㈱アーバンプランニングネットワーク　1995～2001**

◆北越谷駅東口Ａ街区市街地再開発事業
公共施設実施設計
［埼玉県越谷市］（道路・駅前広場実施設計）
◆中山間河津地区活性化施設建築工事実施設計
［静岡県河津町］（建築実施設計）
※河津バガテル公園（オランジェリー）
◆春ノ蔵整備事業に伴う実施設計　*※P4写真*
［静岡県河津町］（建築・公園実施設計）
※河津バガテル公園（飲食物販施設・公園）

**㈲ユー・プラネット　2001～2020**

◆新杉田駅前地区第一種市街地再開発事業
公共施設（広場）実施設計
［神奈川県横浜市］（公園実施設計）
◆新杉田駅前地区第一種市街地再開発事業
立体横断施設詳細設計
［神奈川県横浜市］（歩道橋実施設計）
◆塩尻市奈良井地区街なみ環境整備事業
計画策定・実施設計
［長野県塩尻市］（道路実施設計）
◆レイクニュータウン・レマン湖修景整備計画
［民間］（公園基本設計）
※軽井沢レイクガーデン
◆越谷駅東口第一種市街地再開発事業
公共施設実施設計業務　*※P4写真*
［埼玉県越谷市］（道路・駅前広場設計）
◆紙敷地区区画整理事業
公園設計・工事監理業務
［千葉県松戸市］（公園設計・工事監理）
◆水木しげるロードリニューアル工事
道路詳細設計業務　*※P6広告*
［鳥取県境港市］（道路設計）
◆町道絵馬通り線　道路詳細設計業務委託
［滋賀県多賀町］（道路設計）　*※P5写真*

㈱宮本忠長建築設計事務所　西澤 広智

# 「小布施町」その２

## まちづくり・景観形成の理念の誕生

笹の広場

栗の小径

先回お話しした、「小布施町並修景計画」が一応の完成を見た1987年に、「新建築住宅特集」に掲載された時、宮本忠長が紙面で「マスタープランのないまちづくり」と題した文章を掲載しています。まだ事務所に入って数年の若僧には、この意味が深くは理解できませんでした。

今回のように、広いエリア、複数の地権者がいる場合、事業協同組合をつくり、補助金を入れ、まずはマスタープランを作り、一度まっさらにして理想的な地区を形成する、「住民の暮らしすべてがリセットされてしまう再開発」が一般的な時代でした。宮本は住民が住み続ける生活環境整備であることが重要と考えたのです。

もちろん計画の初期から全体イメージプランは何案もつくりました。1984年に住宅２軒の建設が始まりますが、その後の計画はまだ検討中でした。このエリアの一番奥に、日照・通風などに配慮し、内懐の居住性を考え、更に今までの家にあった土蔵・納屋を曳家し、庭木や庭石も移設し、古いものを生かして住宅２軒を建設ました。この２件が出来た時に、地権者全員が集まり家並や空間尺度を認識しながら次の計画を考えていくこととなります。こんな時に、他人の建物に対してでも、外観に関しては、いろいろ言う権利「外観権」はミンナにあるんだという認識が生まれます。また、この以前に北斎館前に計画された小布施堂さんの栗菓子工場「傘風舎」の建設で、塀で囲われた敷地をオープンな笹庭「笹のひろば」が生まれ「公益性のある空間」とすることの有効性が認識されます。これらの考え方が宮本忠長の広めた、「ソトはミンナのもの。ウチはジブン達のもの」という、まちづくり・景観環境整備の理念となっていきます。

計画を進める中で、「高井鴻山記念館」と、北斎館との動線を整え回遊させる計画を考えることとなり、「栗の小径」が生まれました。畦道であった町道を小布施に多くある栗をブロックにして敷き詰め、小布施のまちに昔からあるような土壁と塀の路地空間をつくりました。潤いのあるしっとりとした空間となり、建物と建物の「間」の空間の大切さが理解されるようになります。次に、表通り（国道403号）に面した、長野信用金庫と、小布施堂の店舗、そして、高井鴻山記念館」の駐車場・アプローチを検討する５者会議が開かれました。その席上、宮本忠長が黒板の上に、駐車場を共用とし、風紋をイメージしたデザインの広場とする案のスケッチを突然描き始めました。それぞれ個人の敷地が、公的空間に生まれ変わった瞬間でした。

景観ビジネス最前線

## ホワイトボード

世の中コロナ一色である。だからこそ、未来の景観を考えたい。9年前跡形もなく消えてしまった街が再生に向ってしっかりと歩みだしている女川、そして外部は公共空間と謳って整備地区が拡大している小布施、そして未来の街を考えてくれそうな子供たちを育てようとの活動。そしてNEWSにコロナのあと、何が景観をかえるのかを問う取材をした。TDAにとっては辛いニュースを届けなければならない。事務局長・栗原裕さんの追悼特集である。未来の一部を失った。ご冥福を心よりお祈りいたします。

TDA JAPAN

**NPO法人 景観デザイン支援機構　事務局**

〒 111-0043 東京都台東区駒形 1-5-6　金井ビル 3F
Tel：080-6722-4114　Fax：03-3847-3375　E-mail：main@tda-j.or.jp
http://www.tda-j.or.jp　https://www.facebook.com/tda.public

私達は下記の企業・団体のご協力をいただいています。
㈱昌平不動産総合研究所／㈱日軽エンジニアリング
都市環境デザイン会議／㈱都市環境研究所

編集長：井上 洋司　名誉編集長：曽根 幸一　編集委員：矢内 匠／金子 祐介／倉澤 聡　編集：㈱アーバンプランニングネットワーク　2020061000